

税金のおかげで

甲斐市立双葉中学校2年 小室 朱衣

私は本が大大大好きだ。しかし、けっして安くない本をたくさん買うことはできない。いつかたくさんの本に囲まれて過ごしたいと家族や友人に豪語しているが、いつになれば実現できるか分からない。そんな私にとって図書館は小説から絵本・図鑑・実用書など様々な種類の本が所狭しと置かれている、夢のような場所だ。さらに、図書館には本の無料貸し出しサービスがある。高価で買うには躊躇してしまう本も、少し気になっていた本も、その場で目に付いた本も、全て無料で読むことができるのだ。また、たまたま手に取って読んだ本が掛け替えのない一冊になったりと、本との幸運な出会いや、思いがけない発見を得ることもでき、とても素敵だ。しかし、ふとした瞬間に疑問を感じることもある。思いつく限りでも、図書館の運営にはたくさんの費用がかかる。本を購入する費用や、施設の維持費、働く人の給料など…。それなのに、なぜ無料で図書館を利用できているのだろうか。

調べてみると、図書館の費用は税金で賄われていた。大半の予算は自治体の一般会計から支出され、住民税や地方消費税、地方交付税など様々な税金と、自治体の債券などが、その元なのだという。そして驚くべきは、その使われている費用の総額だ。令和三年度山梨県の県立・市町村立図書館の資料費予算と経常費予算は、合計で十七億一千万円。とんでもない額である。税金のおかげで図書館のサービスが成り立っているのだ。

ならば、もし税金が無くなってしまったら、図書館はどうになってしまうのだろう。税金が無ければ、図書館の無料貸し出しサービスは維持できない。無料貸し出しサービスは廃止され、図書館そのものがなくなってしまうかもしれない。

図書館に限らず、税金が無くなってしまったら、税金によって提供されている様々な公共サービスが受けられなくなってしまう。日常生活に欠かせない道路や橋の建設や設備、憩いの場である公園の維持管理、国の治安を守る警察も、公共サービスの内の一つだ。つまり、税金があるからこそ、豊かで安心した生活が送れているのだ。

今まで私は、税金はただ負担になっているだけだと不満に思っていた。なぜ何をするにも税金を取られなくてはいけないのか。友達と買い物に行ったときも「税金なんてなければいいのにね」と笑っていた。そう言っていたのは、税金について何も知らなかったからだ。今回、図書館のしくみに興味を持ち、調べる中で、税金について学ぶことができた。また友達と税金の話題になったときは、税金の必要性を伝えてみようと思う。現在の生活は税金によって支えられていることを意識しながら、日本国民の一員として税金をしっかり納めていきたい。